

# 発掘新聞

1月25日号

平成25年復活第1号

編集・発行

九州歴史資料館

電話 0942-75-9575

今年のような寒い冬には、ぽかぽかあったか!!

## 古墳時代の暖房付(?) 竪穴住居多数発見



塔田琵琶田遺跡で発見されたオンドル状遺構:住居の中央にカマド本体、そこから右側に長く煙道部がのびている様子がよくわかる =当館撮影

### 豊前市塔田琵琶田遺跡、 オンドル状遺構を持つ 竪穴住居多数調査中!

豊前市塔田琵琶田遺跡は、これまで圃場整備及び東九州自動車道建設工事に伴い、豊前市教育委員会及び当館によって発掘調査が行われ、これまで主に古墳時代前期(今から約1750年前)と中期(今から約1500年前)の大規模な集落が発見されている。

この遺跡で発見された古墳時代中・後期の竪穴住居跡のカマドでは7割以上で、通常まっすぐに住居の外にのびるカマドの煙道が、住居の壁に沿って横に造られていた。

このカマドは、その当時の朝鮮半島のカマドによく見られるもので、現在もある室内を暖める「オンドル」のもとになったと考えられることから、「オンドル状遺構」と呼ばれる。日本国内では発見されることが非常に少ない貴重なものだが、本遺跡周辺の旧上毛(こうげ)郡域(豊前市・築上郡)では集中して見つかった。

このカマドの構造を詳しく見てみると、住居の北か西壁の中央付近にカマド本体を造り、住居の壁に沿って粘土で築いた煙道部の間をカマドで熱した暖かい煙が通ること、住居全体が暖まったものと考えられる。

このオンドル状遺構があることで、本遺跡に住んだ人々は暖かい冬を越したと想像される。しかし、同時期の近くの集落では通常のカマドしか見られない。この原因は、本遺跡に住んだ人は、朝鮮半島からの渡来人の子孫、近くの遺跡は昔からの地元の人々というという差が表されているのかもしれないことだ。

ちなみに、本遺跡の人々は、とても寒がりだったのかも、とちよつとは思ったりしちゃいます。(大庭孝夫記者)



石塔を持つ発行人(一番上)=発行日撮影

#### 『発掘新聞』復活について

発行人 当館文化財調査室 大庭孝夫

『発掘新聞』は、昨年「発掘速報展2012」の期間中、計7号発刊いたしました。思いがけず好評であったため、今回とりあえず3月末までの限定で復活することとなりました。

これまでよりさらに速報性を高めて、「掘りたて熱々」の情報をお届けいたします。ご期待ください。



→壁沿いに延びるオンドル状遺構の煙道部  
||当館撮影